

第23回 連続講座

共生フォーラムセミナー

2026年

2/1(日)

開場 14:00 開始 14:30 ▶ 16:30

会場： 西区地域福祉センター3階

資料代： 500円(正会員、学生無料)

主催： NPO法人共生フォーラムひろしま

後援： 広島市・広島市教育委員会

多文化共生教育を考える —マイノリティを内面化するとは—

タカハシ ソウ
講師：高橋 創さん

講師プロフィール

広島市出身。広島市内の高校を卒業後、福岡県の大学に進学、中退。その後、広島県内的一般企業に就職。高校在学中に部落解放研究部に所属し、広島地区部落研・解放研生徒実行委員会に参加。在日コリアンや障害を持つ生徒とともに高校生による反差別の活動をおこなった。現在、NPO法人共生フォーラムひろしま理事。

「多文化共生」という言葉が日本社会で一般的に使われるようになったのは1990年代からです。もともと「多文化共生」とは、マジョリティ社会におけるマイノリティへの差別撤廃と人権保障をめざしたマイノリティによるアイデンティティの政治を意味していました。こうした意味での「多文化共生」を実現するためには、マジョリティがマジョリティであることを自覚した上で、マイノリティの側に立つことなのです。そのキーワードが「マイノリティを内面化する」ことだとわたしたちは考えています。このセミナーを通して差別のない多文化共生社会の実現に向けて何が必要なのかをともに考えましょう。

日 程	(休 憩)
14:30 主催者あいさつ	15:50 質疑・意見交換
14:35 講演：多文化共生教育を考える 高橋 創 さん	16:30 終了予定
	終了後、希望者による茶話会を持ちます。

シスターフットは女性解放運動のスローガンにも使われてきた「女性同士のつながり」「闘う女性たちの連帯」を意味する言葉です。

私は以前から「地べた」の目線を大事にし、「エンパシー=他者の靴を履いてみる能力」を唱えるなど、「フット(足もと)」にこだわってきました。異なる考え方や価値観を持つ相手を、相手の立場で想像する力(エンパシー)を働かせ、顔の見える関係の中で「フット」、つまり足もとから連帯し、社会を変えていかないか。「シスターフット」はそんな問題提起です。

「エンパシー」は日本で流行しました。しかし、「他人のことを頭で想像すればいい」と勘違いしている人も多い気がします。日本では「シンパシー」は大事にされてきたけれど、「エンパシー」はあまり実行されていない。だからこそ日本で流行したのだと思います。

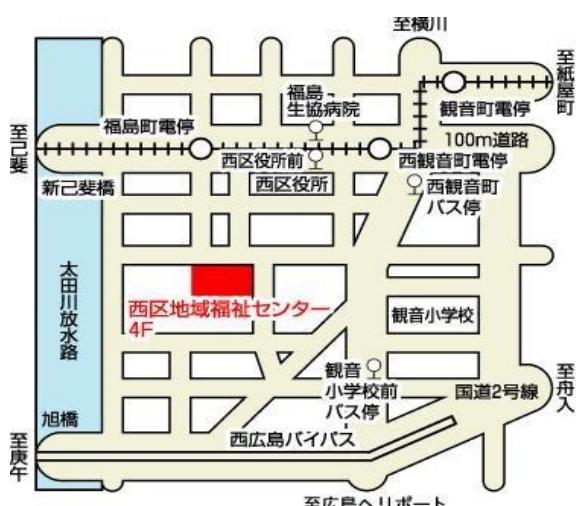
エンパシーは「他人の靴を履いてみる」こと。必要なのは、気持ちではなく経験や知識や情報です。自分の頭の中だけで想像できる「他人の靴」なんて、本当の「他人の靴」ではない。違う国に住んでいる人や、全然違う境遇に育った人と実際に会い、対話し、その意見に耳を傾け、彼らのことを知識としても学ぶ。そうやってようやくエンパシーという能力は育まれるので。

社会階層や国籍や考えの違う人たちと対話する機会は、日本に限らずどの国でも少ない。でもエンパシーを身につけるには、そういう経験こそが大切なのです。（「女性の休日」を祝おう、社会は変えられる ブレイディみかこ 毎日新聞 2025年10月7日）

録画配信について

会員向け録画配信をします。ご希望の方は下記の「問い合わせ先」のアドレスにメールでご連絡ください。

参加申し込みは不要です。当日会場受付にお越しください。



西区地域福祉センター

733-8535 広島市西区福島町 2-24-1
[TEL:082-294-0104](tel:082-294-0104) FAX:082-291-7096

問い合わせ先

特定非営利活動法人共生フォーラムひろしま
 733-0024 広島市西区福島町一丁目 6 番 2406 号
 ☎ 070-3771-9235 (法人事務担当)
 Email : kyosei.fh@gmail.com
 HP : <https://kyousei-h.jimdofree.com>